

昨日の結論は、ワークシート使用禁止であった。にもかかわらず、私には、ワークシートにしがみついた1年間がある。2校目のH中学校に転勤した1年目である。

小学生から、いきなり中学3年生の国語の授業を担当することとなった。国語の免許を持っているにもかかわらず、3年間にわたり国語から逃げていたツケが一気にまわってきた。小学生から中学生、それも中学3年生である。

果たして授業ができるのだろうか。どのように進めればいいのか。考えれば考えるほど、こわくなった、逃げ出したくなった。そして、苦し紛れに出した結論が、毎時間ワークシートを作ることだった。

授業の流れに沿ってワークシートを作る。作り終えれば教材研究が終わったような気になっていた。授業は、生徒がワークシートに書き込むことで進んでいく。授業者としては、安心できるのである。こうでもしなければ、ととてもとても授業をやる勇気は出なかった。

生徒からするとどうであろう。「つまらない」と感じるのが普通感覚である。その時間にやることはわかりやすい。なぜならワークシートに書いてある。よく言えば、学習の見通しは立てやすい。その一方で、授業へのわくわく感はない。

それでも、生徒は普通によく取り組んでくれた。幸か不幸か中学校1年目の授業で困ったという記憶はない。後でわかったことだが、私の授業に限らず、生徒からすれば「やらされている」授業が多かったのである。生徒が受け身になってしまう授業である。そこには主体性のかけらもない。

生徒からすれば、ワークシートの枠に書き込む内容は、正解のようなものと理解していたのだろう。それはすなわちテストに出るかもしれないものとなる。だから、文句も言わず取り組んでいたのかもしれない。

結局、ワークシートを使って、ワークシートを頼って、ワークシートにすがりついて、1年間分の国語の授業を行った。いったいどんな国語の力がついたというのであろうか。あの1年間の授業には、主体的な学びも対話的な学びも、そして深い学びもなかったと断言できる。

自分でも申し訳ない気持ちで、毎時間、授業を行っていた。その分、トークは工夫をした。少しでも生徒が興味をもつようにと。正確には、いわゆる“脱線”的な話なのだが。平成3年度、H中学校3年生の私が国語を担当した5クラスの皆さんには謝るしかない。

1年間、ワークシートを使ったが、途中で「これはだめだ」と気がついた。だが、それに代わるものができなかった。間に合わなかったのである。自分にそれだけの力量がなかった。ワークシートはよくないと思いながら、並行して国語の教育書を読んだり、実践記録を調べたりしていった。

蓄えた力を発揮しようとしたところ、既に季節は冬へと向かっていた。中学3年生の冬、すなわち高校受験である。仕方なく、受験に直結する入試対策を授業で行うようになった。この頃になると、質問をしてくる生徒も出てきた。国語の場合、受験生の質問で多いのは、「文法」である。一つ一つの質問に丁寧に答えるようにした。質問内容に関連する資料も配布した。それが、自分にできることだったからである。

ワークシートとともに歩んだ1年間のおかげで、多くのことに気づくことができた。国語教師としての私の出発点であったことは間違いない。